

こうざえもんつうしん 講左衛門通信

平成27年6月14日

第46号

発行 天台宗忍草山東円寺

〒401-0511

南都留郡忍野村忍草38

☎ 0555-84-4114



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは案内責任者)

『今日は、版木の話でまっすん。版木とはどういうもので、どうやって使ったでまっすん?』

『今日は質問攻めじゃな。昔は現在のような印刷機はなかったからな。同じ文章、同じ絵を大量に印刷するために考えられたものが版木なんじゃ。有名なのは、浮世絵じゃ。浮世絵は何枚もの版木を組み合わせて刷られたものなんじゃよ。文字については、文字を反転させて彫らないと、文字が反対に写されてしまうからな。版画や消しゴムで名前のはんこを作ったことがあると思うんじゃが、版木の技術は受け継がれているんじゃよ。さて、東円寺の版木は、富士山と忍野八海を案内するために作られたんじゃよ。今年の八海祭りのポスターには、東円寺の版木が使われているんじゃ。大きなポスターじゃから、文字も読めるぞ。是非、じっくり見てほしいのう。』

『江戸時代に刷られた東円寺の絵図が見つかったという話は本当でまっすん?けれども、刷られた年号が入っていなかったら、江戸時代に刷られたかどうか分からないでまっすん。』

『版木を刷るには墨を塗るんじゃが、大量に刷ると版木は摩耗するんじゃ。現在東円寺にある版木を刷っても、文字ははっきり写らないんじゃよ。けれども、発見された絵図の文字は、細くくっきり読み取ることができたんじゃ。この絵図については、平成12年頃偶然ホームページで発見したんじゃ。当時は、忍野八海が謎だらけでな、些細なことでもいいからと思って、ネットで検索したんじゃよ。曖昧な記憶じゃが、「富士講」で検索したかのう。「たてやまミュージアム」では平成7年に安房の富士講についての企画展が紹介されておったんじゃ。絵図の所蔵は北口浅間神社と書かれてあった。間違いではなかったんじゃが、この絵図は版木が東円寺に現存しているからのう。その事実を連絡すると、「まさか版木が現存しているとは思わなかった」と、担当の学芸員はとてもびっくりしておったぞ。しかし、わしはその絵図を肉眼で見たことはなかったんじゃ。ところが、先日、富士山ミュージアムに行くと、たてやまミュージアムに展示されていたものが、展示されていたんじゃ。文字や富士山の稜線がそれは美しくはっきりと刷られているのを見ることができて感動したぞ。』

『たてやまミュージアムの企画展からは、20年の歳月が流れているでまっすん。きっと、まだどこかに、大我講の講中の足跡はあるでまっすん。そう考えると、足跡を探すことをあきらめていけないでまっすん。次回は、どんな話をしてくれるでまっすん?』

『次号は28日じゃな。28日は不動明王の「縁日」なんじゃよ。聞き覚えのある言葉だと思うが、詳しく知る人は少ないからな。縁日について話そうかのう。』



クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

□癖 でまっすん..

『講左衛門通信』は、第2・第4日曜日に発行予定